



2026年2月5日

各 位

会 社 名 **清水建設株式会社**

代表者名 取締役社長 新村 達也

(コード:1803 東証プライム・名証プレミア)

問合せ先 経理部長 蜂屋 隆之

TEL 03-3561-1111 (大代表)

業績予想及び配当予想の修正（増配）並びに
特別利益及び特別損失の計上に関するお知らせ

2025年11月7日に公表いたしました、2026年3月期の通期業績予想（連結・個別）及び期末配当予想を下記のとおり修正いたします。また、特別利益（投資有価証券売却益）及び特別損失（減損損失）の計上について、下記のとおりお知らせいたします。

記

1. 業績予想数値の修正

(1) 連結業績予想の修正

2026年3月期（2025年4月1日～2026年3月31日）

(単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する当期純利益	1株当たり当期純利益
前回発表予想 (A)	1,910,000	78,000	73,000	75,000	110円62銭
今回修正予想 (B)	2,010,000	110,000	111,000	110,000	162円24銭
増減額 (B) - (A)	100,000	32,000	38,000	35,000	
増減率 (%)	5.2	41.0	52.1	46.7	
(参考)前期実績(2025年3月期)	1,944,360	71,030	71,664	66,015	94円80銭

(2) 個別業績予想の修正

2026年3月期（2025年4月1日～2026年3月31日）

(単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり当期純利益
前回発表予想 (A)	1,470,000	53,000	58,000	73,000	107円67銭
今回修正予想 (B)	1,550,000	82,000	92,500	129,000	190円26銭
増減額 (B) - (A)	80,000	29,000	34,500	56,000	
増減率 (%)	5.4	54.7	59.5	76.7	
(参考)前期実績(2025年3月期)	1,501,519	44,029	51,674	62,139	89円24銭

2. 修正の理由

<個別業績予想>

売上高は、主として国内の建築工事及び土木工事の施工が順調に進捗し、完工工事高が増加する見通しとなったことから、前回予想に比べ800億円の増加で見込みます。

営業利益は、国内の建築工事及び土木工事において、手持工事について追加変更工事の獲得や工事原価の圧縮などにより採算改善が進んだことに加え、受注時の採算も期首の想定を上回って推移したことにより、完工工事総利益が増加する見込みとなったことから、前回予想に比べ290億円の増益で見込みます。

なお、完工工事利益率は、前回予想の9.1%（建築9.0%、土木9.6%）に対し、10.7%（建築10.6%、土木10.9%）となる見込みです。

経常利益は、営業利益の増益に加え、金融収支の改善などから345億円の増益で見込みます。

また、特別利益（投資有価証券売却益）を前回予想から450億円の増加で見込み、当期純利益については、前回予想に比べ560億円の増益で見込みます。

<連結業績予想>

個別業績予想が増益となったことに加え、国内及び海外の建設子会社において、工事採算が改善し完工工事総利益が増加する見込みとなったことなどから、北米の不動産子会社において減損損失の計上があったものの、営業利益は前回予想に比べ320億円、経常利益は380億円、親会社株主に帰属する当期純利益は350億円の増益で見込みます。

なお、上記の特別利益（投資有価証券売却益）及び減損損失の内容については、「4. 特別利益及び特別損失の計上」に記載のとおりです。

（注）上記の業績予想は、本資料の発表日現在入手可能な情報に基づいて作成しています。実際の業績は、様々な要因により予想値と異なる可能性があります。

3. 配当予想の修正

（1）修正の内容

	年間配当金		
	第2四半期末	期末	合計
前回発表予想	円 錢	円 錢	円 錢
		22.00	44.00
今回修正予想		43.00	65.00
当期実績	22.00		
（参考）前期実績 (2025年3月期)	17.50	20.50	38.00

（2）修正の理由

当社は、長期的発展の礎となる財務体質の強化と安定配当を基本方針とし、成長により稼得した利益を連結配当性向40%を目安に還元する方針としております。

この方針のもと、今回の通期業績予想の修正に伴い、期末配当予想を前回予想の22円から21円増配の43円に修正いたします。

これにより、年間配当予想は、前回予想の44円から21円増配の65円となります。

4. 特別利益及び特別損失の計上

(1) 特別利益（投資有価証券売却益）の計上

当社は、「資本コストや株価を意識した経営」を一層推進するため、政策保有株式の縮減を積極的に進めております。2026年3月期通期の投資有価証券売却益は、売却活動が順調に進捗していることや、保有株式の株価が上昇したことから、前回予想に比べ450億円増加の910億円を計上する見込みです。（上場株式40銘柄を売却見込み。）なお、このうち719億円については、第3四半期連結累計期間において、特別利益に計上しております。

(2) 特別損失（減損損失）の計上

当社の連結子会社であり、北米で投資開発事業を行っているシミズ・リアルティ・デベロップメント（U.S.A.）社は、保有する米国の賃貸オフィスビル2物件について、物件取得後、新型コロナウィルス感染症の流行を契機としたオフィス需要の減退や急激な金利上昇などにより収益性が低下し、2026年3月期第3四半期連結会計期間において、直近の入居テナントの状況等を踏まえ将来の回収可能性を検討した結果、回収可能価額が帳簿価額を下回ることとなったため、220億円の減損損失を計上いたしました。

以上